

国際セミナー「グローバルな開発潮流と新興アジアの課題～開発センターの知見を生かして～」における小田原外務大臣政務官の開会の辞

２０１６年１２月１９日（月）１３時～（日英同時通訳）

於：イイノホール&カンファレンスセンター（東京都千代田区）

マリオ・ペッチーニＯＥＣＤ開発センター所長
二階自由民主党幹事長
北岡国際協力機構理事長
御列席の皆様

外務大臣政務官の小田原潔です。本日は、国際セミナー「グローバルな開発潮流と新興アジアの課題～開発センターの知見を生かして～」にお集まりいただき、心から感謝申し上げます。

我が国は、今年６月１日、１６年ぶりにＯＥＣＤ開発センターに復帰いたしました。この間、新興国の世界経済に占める割合が飛躍的に増加するとともに、開発課題の多様化・複雑化が進んでおり、先進国のみならず、新興国を含む各国が、開発協力の分野において、それぞれの役割を果たすことが求められています。

このような中、ＯＥＣＤは新興国へのアウトリーチ活動を強化すると共にそれぞれの開発課題に応じたテーマ別の取組を進めるなど、変化する開発環境に対応する努力をしてきました。開発センターは、ＯＥＣＤが今日の開発課題に対処する上で中核となる機関です。今年、我が国が、開発センターに復帰したのもこのようなセンターの重要性を踏まえてのものです。また、近年センターのメンバーシップが大幅に拡大しているのは、我が国のみならず多くの国がセンターの重要性を認めていることを示すものだと考えます。

我が国は、OECD開発センターのメンバーとして、またOECDへの最大拠出国の一つとして、OECDとアジアの橋渡しとしての役割を果たし、開発センターがアジア関係の活動を活発化することを後押ししていきます。

アジアとOECDが関係を深めることは、双方に安定ある繁栄をもたらすでしょう。なぜならば、アジア諸国による発展の経験をOECDを通じて世界と共有することは、今も貧困に苦しむ世界各地の成長に資するからです。同時に、アジアにとっても、中進国の罫を始めとする様々な課題に対処しつつ、質の高い成長や真の繁栄を実現するため、OECDが有する知見や分析、政策提言が有益だと考えるからです。

また、アジアにおける開発については、本日お越しのERIAやJICAにも多くの知見が蓄積されています。開発センターが、今後アジアにおける関与を深めていく上で、ERIAやJICAといった地域の研究・開発機関と協力を深めていっていただきたいと考えています。我が国は、今回の復帰を契機に、こうした関係強化のお手伝いもしていきます。

最後に、本日のセミナーが、OECD開発センターのアジアにおける活動強化につながる重要な一歩となることを祈念し、私の開会の挨拶とさせていただきます。

御清聴、ありがとうございました。

(了)